(10)
第廿七回

REEL No. 1-0442

0363

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

大正四年十二月七日貴衆両院ニ於ケル石井外務大臣演説（傍線原文ノマヽ）

諸君第三十七回帝國議會ノ開會ニ際シ茲ニ諸君ニ向テ前議會以後ニ於ケル外交經過ノ大要ヲ陳述スルコトヲ得ルハ本大臣ノ光榮トスル所ナリ

帝國ト聯合同盟國トノ結束ハ益々鞏固ヲ加フルト同時ニ其他締盟各國トノ關係亦益々親善ヲ加ヘツヽアルハ本大臣カ諸君ト共ニ欣幸トスル所ニシテ又今回ノ御大典ニ際シ之等ノ各國カ何レモ熱誠ヲ以テ奉祝ノ儀ニ參加シ衷心祝賀ノ意ヲ表シタルハ我國民ノ擧テ滿足スル處ナルコト本大臣ノ言フヲ待タサル所ナリ

隣邦支那ニ在リテハ國体変更帝制再興ノ議起リ最近遽ニ其歩ヲ進メ之カ實現將サニ遠カラサラントスルニ至レリ是ヲ以テ政府ハ愼重審議大局ノ利害ヲ考察シ他ノ關係諸國トモ充分意見ヲ交換シタル上支那ニ對シ國体変更ノ計畫ヲ延期セシコトヲ友誼的ニ勸告スルコトニ決シ我在支代表者ヲシテ之ヲ實行セシメタル次第ハ其當時之ヲ發表シ置タル通ナリ蓋シ歐洲ニ於ケル戰爭ノ慘禍業已ニ甚シキモノアルニ當リ何レノ地タルヲ問ハス更ニ新ナル不安ノ紛擾ヲ加フルノ虞アル事態ハ能フ限リ努メテ之ヲ避クルヲ必要トス然ルニ支那各地方ニ於ケル趨勢ハ表面ニ一般ニ帝制ニ贊成ヲ表スルノ觀ヲ呈スレトモ裏面ニ於ケル反對不安ノ氣運ハ意外ニ深ク且廣キニ亘ルト信スヘキ理由アリ若シ一旦帝制ノ實現ヲ見ルカ如キコトアランカ如何ナル擾亂ヲ來スヤモ計リ難ク折角

近時漸ク平静ニ近キツヽアル支那ノ治安ヲシテ再ヒ逆轉セシムルノ虞アリ東洋ノ平和亦遂ニ之カ為ニ危殆ニ陷ルナキヲ保セサルノ有様トナレリ而シテ若シ帝制實行ノ結果斯ノ如キ事態ヲ惹起スニ於テハ直接間接支那ニ對シ利害ヲ有スル諸國殊ニ之ト最モ密接ノ関係ニ在ル日本ノ蒙ルヘキ損害ハ真ニ計ルヘカラサルモノアルヘシ帝國政府ノ執リタル措置ハ隣邦支那ノ秩序公安ヲ維持シ延イテ東洋ノ静安状態ヲ確保センカ為其當ニ盡スヘキ所ヲ為シタルニ外ナラスシテ毫モ支那ノ内政ニ干與スルノ意思ナキハ勿論支那ニ對シ一点ノ私心アルニ非ス全ク誠心誠意支那及列國ノ利害ヲ顧念シタルニ由ル次第ナリ

我在支代理公使ハ帝國政府ノ訓令ニ基キ英露佛三國公使ト協同シテ帝制延期ノ勧告ヲ実行シ尋テ伊國政府モ亦自ラ同様ノ措置ニ出テタリ

右諸國ノ勧告ニ対シ支那政府ノ為シタル回答ノ全文ハ去十月四日ヲ以テ公表シタル通ナルカ要スルニ措辞曖昧意味明瞭ヲ缺クモノアリシヲ以テ帝國政府ハ更ニ支那政府ニ問フニ同政府ハ列國ノ為シタル帝制延期ノ勧告ヲ受諾シタルモノナリヤ否ヤヲ以テシタリ

支那政府ハ之ニ対シ回答スル所アリシモ其詳細ノ内容ニ至リテハ支那政府ヨリ秘密ノ回答トシテ受領シタルモノアルヲ以テ今日此席ニ於テ之ヲ開述スルコトヲ得サルハ本大臣ノ遺憾トスル所ナ

ルカ要スルニ帝制ノ実行ハ多少延期ヲ免レス
トノ意向ヲ表彰シタルモノナリ若シ夫レ本問題
ニ対シ帝國政府カ今後執ルヘキ措置ニ至テハ事
関係諸國ト協議ホ了ノ事項ニ属スルヲ以テ直
チニ之ヲ彭ニ言明スルコトヲ得サル次第ニ付右様
御諒承相成タシ
昨年九月五日倫敦ニ於テ英佛露三國間ニ調印
セラレタル所謂倫敦宣言ニ関シ帝國政府ハ過般
同宣言ニ公然加盟スルノ手續ヲアセリ抑右宣言
御承知ノ如ク現戰爭中單獨ニ講和セサルヘキコト
及何レノ政府モ他ノ政府ノ同意ヲ經スシテ講和
條件ヲ要求セサルヘキコトヲ約定シタルモノニシテ右
三國間ニハ日英両國間ニ於ケルカ如ク戰後講和
ニ関シ何等協約ノ存スルモノナカリシカ故ニ右約定
ヲ必要トシタル次第ナルモ日英両國間ニハ同盟協
約第二條ノ規定アルヲ以テ更ラテ右ノ如キ約定ヲ
為スノ必要ナカリシナリ
右ノ次第ハ昨年本議場ニ於テ當時ノ外務大臣加藤
男爵ヨリ報告セラレタル所ニシテ諸君御承知ノ通ナ
ルカ其後三國政府ヨリ帝國政府ニ對シ右倫敦宣言
ニ正式加入方ヲ勸誘シ来リタリ由来帝國カ三國側ト
協同講和ノ関係ニ在ルハ日英同盟條約ト倫敦宣言
トヨリ来ル自然ノ結果ナレハ帝國政府カ更メテ正式
ニ倫敦宣言ニ加入スルノ絶對必要アリタル次第ニハ非
スト雖モ帝國ノ宣言加入ハ聯合諸國ノ決心及結合
ノ益強固ナルコトヲ内外ニ宣明スルモノニシテ戰爭ノ前

REEL No. 1-0442
0366
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

途ニ對シ頗有益ナルヘキノミナラス媾和ニ臨ムテ關係國間ノ位地ヲ一層瞭然タラシムルノ效果モ亦之アルヘキヲ認メタルヲ以テ帝國政府ハ在英大使ニ訓令シ去十月十九日ヲ以テ英國外務大臣及英國駐劄佛露兩國大使トノ間ニ該加盟ニ關スル文書ノ交換ヲ行ヒタル次第ナリ右交換公文ハ曩ニ公表セラレ既ニ諸君ニ於テ御承知ノ通ナリ

次テ十一月末ニ至リ伊國政府モ亦倫敦宣言ニ加盟スルニ決シタルヲ以テ同月三十日倫敦ニ於テ日英露佛及伊國政府ノ間ニ右加盟ニ關スル宣言ノ調印アリテ其條文ハ昨六日公表セラレタリ

REEL No. 1-0442
0367
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

大臣（印）
次官（印）

記録 保存ノ件

大正四年十二月七日岩家書記官ニ手交セル
石井外務大臣ノ祝辞案稿

第一課
第二課
政務局長

訂正

諸君ハ本日茲ニ田園ニ相会シ
諸君ト親シク談話スルノ機会ヲ得
以テ彼此相互ノ交誼ヲ厚フシ大要ヲ陳ヘ
直ヘテ下ヲ回ルハ本大臣ノ衷心欣栄トスル
所ナリ
惟フニ我帝国ト支那トハ其ノ
…
テハ風俗言語ヲ同フシ
運動アリ…此ノ際…歩ヲ進メ

（欄外書入）
両国ハ唇歯輔車ノ関係…
…其他ノ関係…
…諸君ト共ニ…
…両国ノ…
心ヲ祝賀ノ意ヲ…

表ニ於ケル國民ノ挙テ満足スル要求ヲ傳ヘコト大
帝アルト信国ト国交ヲ加フルニ於テ之ヲ状態ニ依リ証明シテ依アリト謂フベシ
同ノ言ヲ待タサル所ナリ

之カ実現ハ期シ難キコトハ本地
方ニ於ケル不穏ノ状況ニ徴シテ明白ナリ
即チ除シテ加ヘテ之ヲ統制スルコト
非時当局ハ常ニ政府ノ方針ヲ支持シ形
勢ヲ観望シテ徒ニ放任セス
進ンテ帝制ノ実現ニ努メ之ヲ向
援助スルノ方針ヲ有スルモ
機宜ノ措置ニ出テナカラ更ニ本方策
此方針ノ決定ヲ為スニ当リテ是
ヲ以テ政府ハ恒ニ実情ヲ稽査シ
儀大局ノ利害ヲ考察シ他ノ異
議アルトモ充分之ヲ見テ交換シ
タル上支那ニ対シ又支那ノ計
画ノ延期セシメント友誼的勧告スル
コトニ決シ英支代表
者ヲシテ之ヲ実行セシメタル次第ハ

外務省

0369
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

其当時ニ於テ発表シタル要旨左ノ如シ

今次袁君帝制ヲ採ラントスル理由ハ簡ナリ蓋シ世

（欧洲ニ於ケル戦争ノ結果[illegible]）

界ノ情勢ハ上述ノ如クナルニ当リ何

レノ地ヲ問ハス又新タナル不安ノ状態

ヲ加ヘ来リタル際ニ於テ争乱ノ結果ヲ防ガメ

テ之ヲ通ゼサルヘカラス 然ルニ支那各地

方ニ於ケル情勢ハ未タ一般ニ帝制樹

立ノ表示ヲ観ルニ至ラストモ帝制ニ対

スル情勢ハ依然未定ニシテ反

対ノ不安ノ気運ニ満チ且ツ反対キニ至

（ルトキハ[illegible]理由アリ）

リ若シ一旦帝制ノ実現ヲ見ルニ至ラハ

天下ノ大ニ于ケル何タル擾乱ヲ来スヘキ

ヤモ計リ難ク加フルニ近時漸ク平静ニ

帰シ近キツツアル支那ノ治安ヲシテ再ヒ

逆転セシメ先ノ雲南ノ[illegible]アリ

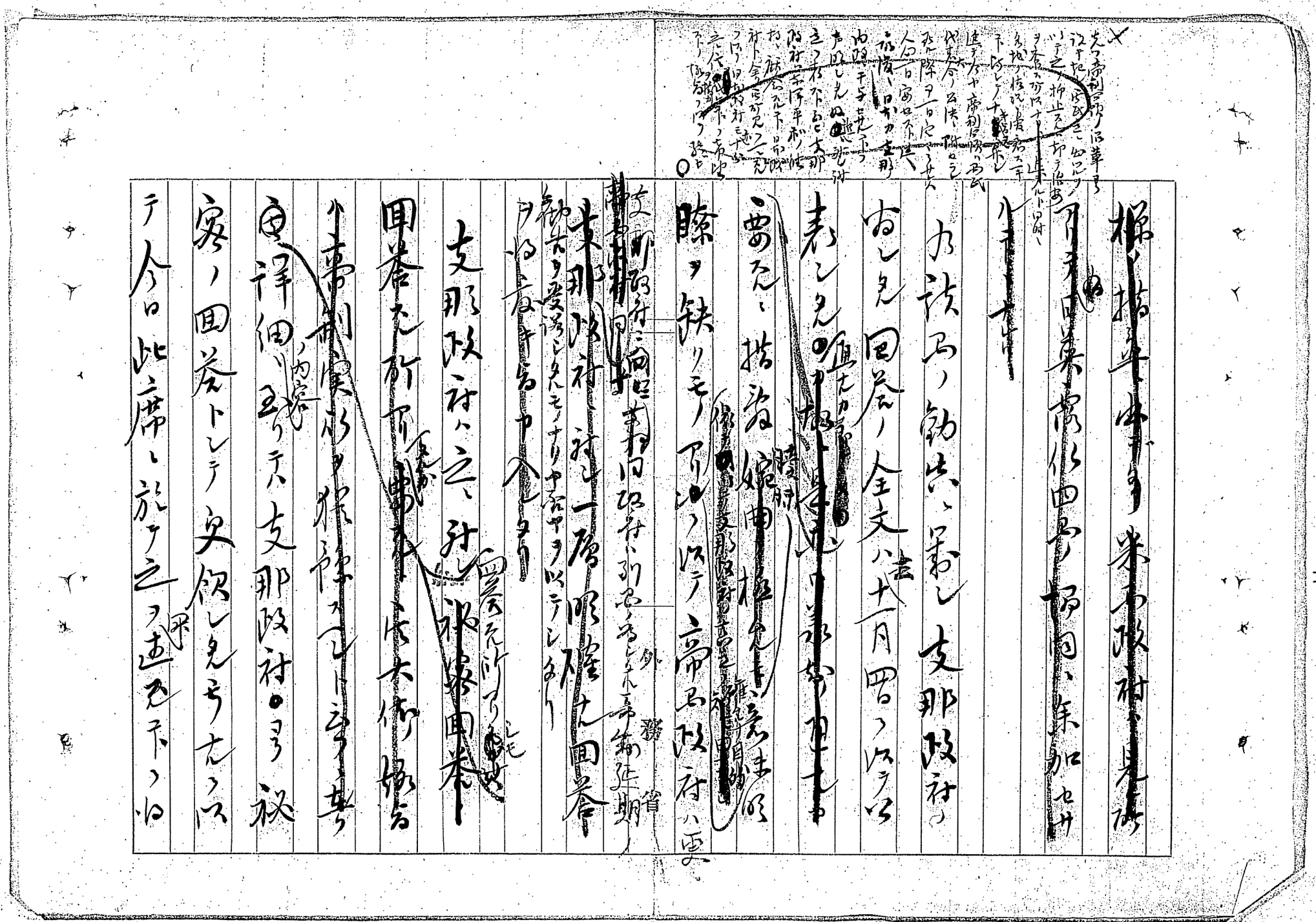
東洋平和ヲ危殆ニ陥ラシムル

ルノ有様トナレリ 而シテ若シ帝制実行ノ

外務省

強果ハ何ノ為ニ起スカ於テ人亦
相互相支配シ利害ノ為ニ結ブ
所ノ之ト密接ノ関係ヲ生ス日本ノ属
キ領土ハ古ヘ計ニカラサル程ナリ
帝国政府ノ教ヘ相互ニ協和シ
那ノ秩序ヲ安寧ニ保チ進ム
イテ東洋ノ平和ヲ保セントス
当ニ我ニ一キ所ノ国ヲ

廣ク支那ノ内政ニ干渉ヲ与フルノ主旨ナキハ勿論
此機会ニ乗シ支那ニ対シ私心ヲ挟ミ
下心ノ論ヲ為ス支那及列国ニ利ス
故ニ我カ支那ニ由ル次第ナリ
我カ支那ニ対シ帝国政府ノ訓令ハ
其本来ノ使命ニ基キ切ニ
帝制処置ノ動静ニ関シ
伊藤府ニ自ラ指示出ヲ乞フ



REEL No. 1-0442

0373

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

△ナルカ要スルニ支那帝国ト日本[illegible]制度行ハレ[illegible]期ヲ[illegible]意向ヲ表示スルモノナリ

サルハ右大臣ノ至当トスル所ニ若シ
夫レ右同盟ヲ利シ帝国政府ハ今後
[illegible]方今[illegible]戦究中ニ属シ
其関係諸国ト協議中ニ属スモアリ
ルヘクシテ[illegible]天下ノ同セサル
直ニ之ヲ議ニ付スハ
次第ニ付右様ノ諸策ニ加ヘス
昨年九月五日倫敦ニ
於テ英仏露三国間ニ調印セシ宣
言ハ帝国政府ニ於テモ加入ノ件ニ付
右宣言ハ現戦争中単独ニ講和
セサルヘキ旨及ヒ講和条件
議定ノ際何レノ政府モ他ノ政府ノ
同意ヲ経スシテ講和条件ヲ要求セサル
旨ヲ約定シタルモノニシテ右三国間ニハ
曩ニ英吉利国ハ戦後講和
ニ関シ何等協約ノ存スルモノナカリシカ

REEL No. 1-0442
0374
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

設ケ内治官ノ為メトシテ次第ニ
日英両国間ニ日墨協約第二条ノ
規定アリシヲ更メテ内ノ目的ヲ
為スヲ為メカリシ
内ノ次第ハ昨年来城内ノ情況ハ
友邦ニ報告セラレタルニテ
政府ハ第三国ガ国ガ後三国政府
ヲ帝国政府ハ内閣ニ
外務省

八方ノ勧誘シ来リタル
ノ場合ハ本国ハ
由来帝国ハ極東ノ平和ノ為メ
協同ノ情和ノ保ハ先ツ日英
同盟条約ノ趣旨ニ
ヲ三国宣言ハ
ヲ立ハ三国宣言ハ
ヲ立ハ三国宣言ハ
ヲ立ハ三国宣言ハ

勝ハ亀毛兎角ノ類ナル果ナキモ然レトモ
次第ニハ非ズト会民
帝国ノ再ビ宣戦ニ加入ハ帝国ノ決心
聯合諸
及諸公ノ並ニ同国ナル下ノ宣戦スルモ
ノニシテ戦争ノ前途ニ付キ如何ナル
ヘキ事ナクス[illegible]調和ニ[illegible]間接国同ノ位地ヲ一層強固ナラシムル
タラシムルノ結果ヲ示スモノナリ
聯合国[illegible]キノ理由メタルノ以テ
帝国政府ハ在英大使ニ訓令シ去十
一月十九日ノ以テ英国外務大臣ニ対シ南西大使
五国[illegible]
ト同シク協約加盟ノ件ニ関スル交渉ノ文
換ヲ行ヒ[illegible]漢ナル次第
有リ右交換ノ文ハ日英ニ於テ発表セラレ
殆ント同様ノ協約ニ於テ加盟
右ノ通ナリ

以上前述ニ於ケル宣戦ノ交
同盟ノ規定其他ノ関係
関シ[illegible]
[illegible]

外務省

次テ十月五日
ヨリ伊国政府
ヨリ倫敦宣言
ニ加盟スルニ決
シタル旨ヲ以テ同月
三十日倫敦ニ
於テ日英露仏
及伊国政府間
ニ右加盟ニ関
スル宣言調印
アリテ其
[illegible]
条文ハ昨六日公表セラレタル通ナリ

第三十七回帝國議會開會ノ詔書

大正四年十二月七日 於ノ陛下

諸君 茅三十七回帝國議會ノ開會ニ際シ茲ニ諸君ニ向テ前議會以後ニ於ケル外交經過ノ大要ヲ陳述スルコトヲ得ルハ本大臣ノ光榮トスル所ナリ

帝國ト聯合同盟國トノ結束ハ益ヽ鞏固ヲ加フルト同時ニ其他締盟各國トノ關係亦益ヽ親善ヲ加ヘツヽアルハ本大臣カ諸君ト共ニ欣幸トスル所ニシテ又今回ノ御大典ニ際シ之等ノ各國カ何レモ熱誠ヲ以テ奉祝ノ儀ニ參加シ衷心祝賀ノ意ヲ表シタル

外務省

淨書 校正原淨

ハ我國民ノ輩ニ滿足トスル處ナルコト
本大臣ノ言フヲ待タサル處ナリ
隣邦支那ニ在リテハ國体變更帝制
再興ノ議起リ最近遽ニ其歩ヲ進
メ之カ實現ヲ企カラサントスルニ至レリ
此時當帝國政府形勢ヲ觀望
シ事体ノ成行ニ放任スヘキカ進ンテ帝
制實行ヲ賛成シ之ニ向テ援助
ヲ與フヘキカ將又其他ノ措置ニ出
ツヘキカ其方針ノ決定スルノ必要
遭遇セリ
之ヲ以テ政府ハ慎重審
議各種關係大局ノ利害ヲ考察
シ他ノ関係諸國トモ充分意見ヲ交
換シタル上支那ニ對シ國体變更ノ
計畫ヲ延期セシコトヲ友誼的ニ勧告
スルコトニ決シ我在支代表者ヲシテ

外務省

REEL No. 1-0442
0378
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

之ヲ實行セシメタル次第ハ其當時
之ヲ發表シ置タル通リ蓋シ欧洲
ニ於ケル戰爭ノ慘禍甚シキモノアル當リ何
レノ地タルヲ問ハス更ニ新タナル不安ノ紛
擾ヲ加フルノ虞アル事態ハ能フ限リ
防メンノ之ヲ避ルヲ必要トス然ルニ支那
各地方ニ於ケル趨勢ハ表面一般ニ
帝制ニ贊成ヲ表スルノ觀ヲ呈スレ

外務省

トモ裏面ニ於ケル反對不安ノ氣運
ハ意外ニ深ク且廣キニ亘ルト信スヘキ
理由アリ若シ一旦帝制ノ實現ヲ見
ルカ如キコトアラシカ何時如何ナル擾乱
ヲ來スヤモ計リ難ク折角近時漸ク
平靜ニ近キツヽアル支那ノ治安ヲシテ
再ヒ逆轉セシムルノ虞アリ東洋ノ平
和亦遂ニ之カ為ノ危殆ニ陷ルナキヲ

REEL No. 1-0442
0379
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

保セサルノ有様トナリ而シテ若シ帝
制實行ノ結果斯ノ如キ事態ヲ
惹起スニ於テハ直接間接支那ニ
對シ利害ヲ有スル諸國殊ニ之ト最
モ密接ノ関係ニ在ル日本ノ蒙ルヘキ
損害ハ真ニ計ルヘカラサルモノアリ事実
帝國政府ノ執リタル措置隣邦
支那ノ秩序公安ヲ維持シ延イテ
東洋ノ静安状態ヲ確保センカ為
其當ニ盡スヘキ所ヲ為シタルニ外ナ
ラスシテ毫モ支那ノ内政ニ干與スル
ノ意思ナキハ勿論支那ニ對シ一点ノ
私心アルニ非ス全ク誠心誠意支那
及列國ノ利害ヲ顧念シタルニ由ル次
第ナリ」

「我在支代理公使ハ帝國政府ノ

REEL No. 1-0442
0380
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

訓令ニ基キ英露佛三國公使ト
協同シテ帝制延期ノ勧告ヲ実行
シ且ツ伊國政府モ亦自ラ同様ノ措
置ニ出テタリ
右諸國ノ勧告ニ對シ支那政府ノ為
シタル回答ノ全文ハ去十一月四日ヲ以テ
公表シタル通ナルガ要スルニ措辞曖昧
意味明瞭ヲ缺クモノアリシヲ以テ帝
外務省
國政府ハ更ニ支那政府ニ問フニ日政府
ハ別國ノ為シタル帝制延期ノ勧告ヲ
受諾シタルモノナリヤ否ヤヲ以テシメリ
支那政府ハ之ニ對シ回答スル所アリ
其詳細ノ内容ニ至リテハ支那政
府ヨリ秘密ノ回答トシテ受領シタルモ
ノナルヲ以テ今日此席ニ於テ之ヲ開述
スルコトヲ得サルハ本大臣ノ遺憾トスル

REEL No. 1-0442
0381
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

所ナルヲ要スルニ帝制ノ實行ハ多少
延期ヲ免レストノ意向ヲ表彰シタル
モノナリ若シ夫レ本問題ニ対シ帝國
政府ヲ今後執ルヘキ措置ニ至テハ事
関係諸國ト協議未了ノ事項ニ属
スルヲ以テ直チニ之ヲ茲ニ言明スルコトヲ
得サル次第ニ付右様御諒承相成
ラシ

外務省

昨年九月五日倫敦ニ於テ英佛露
三國間ニ調印セラレタル所謂倫敦
宣言ニ関シ帝國政府ハ過般同宣
言ニ公然加盟スルノ手續ヲ了セリ抑
右宣言ハ御承知ノ如ク現戦争中
單獨ニ講和セサルヘキコト及何レノ政
府モ他ノ政府ノ同意ヲ経スシテ講和
条件ヲ要求セサルヘキコトヲ約定シ

REEL No. 1-0442
0382
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

タルモノニシテ右三國間ニ日英両國間ニ於ケルカ如ク戦後講和ニ関シ何等協約ノ存スルモノナカリシヲ故ニ右約定ヲ必要トシタル次第ナルモ日英両國間ニ同盟協約第二条ノ規定アルヲ以テ更メテ右ノ如キ約定ヲ為スノ必要ナカリシナリ

右ノ次第ハ昨年本議場ニ於テ加藤前外務大臣ヨリ報告セラレタル所ニシテ諸君御承知ノ通ナルカ其後三國政府ヨリ帝國政府ニ對シ右倫敦宣言ニ正式加入方ヲ勧誘シ来リタリ由来帝國カ三國側ト協同講和ノ関係ニ在ルハ日英同盟條約ト倫敦宣言トヨリ来ル自然ノ結果ナレハ帝國政府カ更メテ正式ニ倫敦宣言

当時ノ外務大臣

男爵 外務省

REEL No. 1-0442
0383
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ニ加入スルノ絶對必要アリタル次第
ニ非スト雖モ帝國ノ宣言加入ハ
聯合諸國ノ決心及結合ノ益強固
ナルコトヲ内外ニ宣明スルモノニシテ戦
爭ノ前途ニ対シ頗ル有益ナルヘキノミ
ナラス戦後講和ニ際シ關係國間
ノ位地ヲ一層瞭然タラシムルノ效果
モ亦之アルヘキヲ認メタルヲ以テ帝國
政府ハ在英大使ニ訓令シ去十一月十九日
ヲ以テ英國外務大臣及在英佛國駐劄
両國大使トノ間ニ該加盟ニ関スル
文書ノ交換ヲ行ヒタル次第ナリ右交
換公文ハ曩ニ公表セシ既ニ諸君ニ
於テ御承知ノ通ナリ
次テ十一月々末ニ至リ伊國政府モ亦倫
敦宣言ニ加盟スルニ決シタルヲ以テ同月

REEL No. 1-0442
0384
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

三十日倫敦ニ於テ日英露佛及伊國政府ノ間ニ右加盟ニ関スル宣言ノ調印アリテ其條文ハ昨六日公表セラレタリ

外務省

REEL No. 1-0442

0385

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

諸君、本大臣ハ茲ニ本院ニ於テ曩ニ前議會ニ於テ報道ニ及ヒタル以後ニ於ケル帝國外交ノ狀況ニ關シ其概要ヲ陳述スルノ光榮ヲ有ス

歐洲ニ於ケル戰亂未タ終結ニ至ラス加之戰局愈擴大シ何等平和ノ曙光ヲ認ムルコト能ハサルハ洵ニ遺憾ノ至ナルカ其間帝國ト協同交戰ノ狀態ニ在ル諸國トノ關係ハ愈親善ヲ加ヘ事重大ナルモノニ付テハ是等諸國トノ間ニ隔意ナキ協議ヲ遂ケツツアリ局外中立諸國トノ關係モ亦良好ナルコトヲ陳述スルハ本大臣ノ欣幸ニ堪ヘサル所ナリ

外務省

膠州灣ノ攻擊ニ關聯シ帝國ト支那共和國トノ間ニ諸種ノ問題ヲ發生セリ然レトモ支那政府ハ能ク事局ノ大勢ヲ了解シ帝國政府モ亦支那政府ノ誠意ヲ諒トシ互ニ融和事ニ當リタル爲滿足ナル結果ヲ收ムルコトヲ得タリ即

REEL No. 1-0442
0386
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

チ我軍ハ曩ニ膠州濟南間鐵道ノ管理經營ヲ其手ニ收メ且現ニ之ヲ實行スルト同時ニ一般公衆ノ便ニ供シ居リ他面膠州灣ハ天皇陛下ノ御稜威ニ依リ勇敢忠實ナル陸海軍ノ劃策奮鬪着々其効ヲ收メ英國陸海軍亦我ヲ援ケテ熱誠事ニ當リ客月七日ヲ以テ之カ陷落ヲ見現ニ我軍占領ノ下ニ在リ

帝國政府ハ又他ノ一面ニ於テ艦隊ヲ南洋獨領諸島即チ「マーシャル」「カロリン」「マリアナ」「パラオ」各群島ニ派シ其重ナルモノニ對シテハ軍事占領ヲ行ヒ守備隊ヲ置キタリ

次ニ開戰ノ初ニ當リ帝國政府ノ最モ懸念セル問題ノ一ハ在獨墺居留本邦人ノ引揚問題ナリキ獨逸ニハ約四百人内外ノ本邦人各地ニ居留シ墺ニ於テモ亦約三十人内外ノ邦人アリ當時右兩國ニテハ交戰國民ニ對シ交通々信ノ各機關ヲ絶チタル為引揚邦人ノ困難一方ナラス在兩

REEL No. 1-0442
0387
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

國帝國大使館ハ各機宜ノ措置ヲ取リ出来得ル限リ引揚ノ方法ヲ講シタルカ獨逸政府ハ激昂セル國民ニ對シ日本人ニ保護ヲ與フルヲ名トシ彼等數十名ヲ各地ニ拘留シ甚シキニ至リテハ之ヲ牢獄ニ投シタリ帝國代表者ハ之ニ對シ抗議ヲ申入レ且其氏名ノ通告ヲ求メ更ニ拘留ノ狀態ヲ視察セントシ其自ラ伯林ヲ引揚ルニ至ルマテ極力彼等ノ解放ニ努メタルモ何レモ獨逸政府ノ應スル所トナラス之ヨリ先帝國

外務省

政府カ在獨帝國大使館及日本利益ノ保護ヲ米國政府ニ依頼シ其承諾ヲ得タル次第ハ既ニ前議會ニ於テ申述ヘタル通ナルカ以上帝國臣民ノ拘留ニ關シテモ亦同國政府ノ好意ニ訴ヘ獨逸國政府ニ對スル其解放要求方ヲ依頼シタル處同國政府ハ快ク之ニ應シ極メテ懇切ニ交渉ノ勞ヲ執リ且機宜ノ處置ヲ怠ラサリシ結果遂ニ被拘留者大多數ノ解放ヲ見ルコトヲ得タリ但尚若干ノ被拘留者アル見込ニシテ

REEL No. 1-0442
0388
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

其氏名及人員ハ未タ明瞭ナルニ至ラサルモ其解放亦將来米國政府ノ斡旋ニ待ツコト多カラントス本大臣ハ此機會ニ於テ特ニ以上米國政府ノ好意ニ對シ同國政府ニ向テ深厚ナル謝意ヲ表セント欲ス

終ニ臨ミ一言スヘキハ支那ノ現狀ナリ同共和國ハ戰爭前日本及歐洲ノ銀行團ト借款ノ交渉中ナリシカ事未タ定マルニ及ハスシテ戰爭ノ勃發ヲ見ルニ至リタレハ財政困難ノ狀漸ク甚シキヲ加ヘ或ハ其極多少一般ニ地方擾亂ノ發生ヲ来スナランカト懸念セラレタルモ同國政府專心警戒ノ結果幸ニ各地共何等重大ナル擾亂ヲ見ルニ至ラス蓋シ隣邦平和秩序ノ維持ハ同國自身ノ為ニハ勿論其帝國ニ及ホスヘキ影響モ亦決シテ少シト云フヘカラス帝國政府ハ同國ノ平和秩序カ何等ノ妨害ヲ受クルナカランコトヲ切ニ祈望シテ已マサル次第ナリ

以上ハ最近ニ於ケル帝國對外關係ノ一

REEL No. 1-0442
0389
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

班ナルカ此際帝國外交上ノ措置ハ頗ル慎重ノ注意ヲ要スルモノアリ帝國政府ハ鋭意細心四圍ノ情況ニ應シ帝國利益ノ擁護増進ヲ圖ランカ爲最善ノ努力ヲ怠ラサル覺悟ナリ

外務省

REEL No. 1-0442

0390

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

通商局

第一課

第二課

電送第一〇〇六号

一二年十二月七日午後〇時〇分発

在英国公使 石井大臣

在墨国公使

在支各領事

在香港總領事

外務省

本大臣八十二月七日帝国議會ニ於テ左ノ通リ演説シタルニ付テハ其筋ノ向ヘ通知ス

以下（支那、香港（ママ）和文）（其他）（英文）演説全文

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

REEL No. 1-0442

392

Great Britain, however, because of Art. II of ~~the~~ Agreement of Alliance there was no necessity of newly entering into such ~~a~~ compact. In this respect my predecessor Baron Kato had occasion to explain to you in this House last year. Later ~~the~~ Imperial Government received from ~~the~~ Governments of ~~the~~ above-named three Powers ~~an~~ invitation for formal adhesion to ~~the~~ London Declaration. By virtue of ~~the~~ provisions of ~~the~~ Anglo-Japanese Alliance, Japan was placed, as far ~~as~~ ~~the~~ question of ~~the~~ conclusion of peace was concerned, exactly in ~~the~~ same relation with Great Britain and through her with each of ~~the~~ remaining two of ~~the~~ three Powers as they were themselves towards each other by the terms of ~~the~~ London Declaration, and there was, therefore, no absolute necessity on ~~the~~ part of ~~the~~ Imperial Government to formally adhere to ~~the~~ said Declaration. Recognizing, however, that Japan's adhesion to ~~the~~ Declaration will have ~~the~~ effect not only of demonstrating to their advantage ~~the~~ fact of ~~the~~ Allies' determination and unity are growing stronger, but of making more definite ~~the~~ mutual relations of ~~the~~ allied Powers in regard to ~~the~~ conclusion of peace, ~~the~~ Imperial Government instructed His Majesty's Ambassador in London to exchange, as he did on ~~Nov.~~ Oct. 19, notes signifying their formal adhesion to ~~the~~ Declaration with ~~the~~ British Foreign Secretary and French ~~and~~ Russian Ambassadors in London. ~~The~~ text of ~~the~~ exchanged note having already been published, you are familiar with it.

Later by ~~the~~ end of Nov. ~~the~~ Italian Government also having decided ~~to~~ adhere to ~~the~~ London Declaration, on the 30th of the

same

same month ~~the~~ declaration relating to ~~the~~ Italian adhesion was signed by Japan, Great Britain, Russia, France ~~and~~ Italy, and ~~the~~ text thereof was made public ~~on~~ Dec. 6th.

REEL No. 1-0442

0393

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

believe ~~that~~ in realty ~~the~~ undercurrent ~~of~~ disapproval and opposition was far stronger than one would imagine, with consequent growth of ~~the~~ feeling ~~of~~ unrest among all classes ~~of the~~ people. In these circumstances no one could guarantee ~~that~~ there would be no disturbance if ~~the~~ monarchical scheme be pushed through. On ~~the~~ contrary it was ~~to~~ be feared that China, which was of late steadily restoring its peace and order, would thereby be set back to its former disturbed condition. It was obvious ~~that~~ such ~~an~~ eventuality would be highly prejudicial to ~~the~~ general peace ~~of the~~ Orient. Indeed if such ~~a~~ situation be created as ~~the~~ result of China's pushing through ~~the~~ proposed scheme, it would bring immeasurable harm to ~~the~~ Powers having direct or indirect interests in China, and especially to Japan, who stands in so intimate and important relations with that country. Accordingly, in offering to China ~~the~~ advice as above-stated, Japan did only what she should do in ~~the~~ interest of ~~the~~ general tranquility of ~~the~~ Orient, preservation ~~of~~ which depended so much upon ~~the~~ maintenance of peace ~~and~~ order in China. Nor was there any intention, on ~~the~~ part of Japan, of interfering with ~~the~~ domestic affairs ~~of~~ China or of promoting any selfish end at ~~the~~ expense ~~of~~ that country;- in other words Japan was solely actuated by ~~the~~ sincere desire ~~to~~ safeguard ~~the~~ common interests of China and ~~the~~ Powers.

In pursuance of ~~the~~ instructions from his Government, ~~the~~ Japanese representatives in China, conjointly with the

representatives

representatives ~~of~~ Great Britain, Russia and France, gave ~~the~~ advice in question ~~to the~~ Chinese Government, which step was later followed ~~by the~~ Italian Government.

As ~~the~~ reply of ~~the~~ Chinese Government to ~~the~~ Powers' advice, full text of which was published on Nov. 4th, was of ~~an~~ ambiguous and doubtful meaning, ~~the~~ Imperial Government permitted themselves ~~to~~ make inquiry of ~~the~~ Chinese Government whether or not in ~~the~~ said reply acceptance of their advice was implied.

I regret ~~that the~~ reply ~~which the~~ Chinese Government gave to this inquiry having been received as confidential, I am not at liberty ~~to~~ give you here its contents in detail. I may say, however, that ~~the~~ Chinese Government contemplate some delay in ~~the~~ execution ~~of the~~ of scheme. As regards what further step is ~~to~~ be taken by ~~the~~ Imperial Government, I am not able ~~to~~ make any statement at present, for ~~the~~ matter is now under discussion among several interested Powers.

Lately ~~the~~ Imperial Government formally adhered to ~~the~~ so-called London Declaration signed ~~on~~ Sept. 9, 1914 by Great Britain, France ~~and~~ Russia. The Declaration is ~~an~~ agreement between ~~the~~ three Powers that none ~~of~~ them will conclude peace separately during ~~the~~ present war or will demand conditions ~~of~~ peace without previous agreement with other signatory Powers. That Declaration was necessary, since ~~the~~ three Governments had not been bound by any such agreement as there exists between Japan ~~and~~ Great Britain ~~in regard to~~ regarding the conclusion of peace. As between Japan

~~and~~

REEL No. 1-0442

0394

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

加藤外相 在日 年十二月
(三十七回)

Gentlemen:-

I esteem it ~~an~~ honour ~~to~~ meet you here in this House at ~~the~~ opening of ~~the~~ 37th Imperial Diet and be allowed ~~to~~ give you ~~a~~ brief review of ~~the~~ foreign relations of ~~the~~ Empire since ~~the~~ last session ~~of the~~ Diet.

It is ~~to~~ be noted with satisfaction ~~that the~~ unity between ~~the~~ Empire ~~and the~~ allied Powers is gaining in solidity, while ~~the~~ relations of ~~the~~ Empire with our treaty Powers growing in cordiality, and I believe ~~I~~ am voicing ~~the~~ sentiment of ~~the~~ people of our country when I say ~~that~~ especially gratifying was ~~the~~ manner in which these friendly Powers heartily participated in ~~the~~ Grand Ceremony of ~~the~~ Empire just performed and gave expression to their most sincere congratulations.

~~The~~ monarchical movement, which had been on foot in China, recently took ~~a~~ sudden turn for hasty accomplishment ~~of~~ its aim. Upon careful consideration of ~~the~~ general situation, and after having fully exchanged views ~~with~~ several interested Powers, ~~the~~ Imperial Government decided to give ~~to~~ China a friendly advice ~~to~~ postpone ~~the~~ proposed change in ~~the~~ form of government, and had this decision acted upon through their representatives in China. In ~~the~~ presence of ~~the~~ European war, it was most important ~~that~~ every effort should be made ~~to~~ avoid ~~the~~ creation of ~~a~~ situation in any part ~~of the~~ globe, which might give cause for ~~a~~ new and further complication and inquietude. Although it would appear in China as if ~~the~~ monarchical scheme were being favoured by ~~the~~ people generally, there was reason ~~to~~ believe

津田

REEL No. 1-0442

0395

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

諸君第三十七回帝國議會ノ開會ニ際シ茲ニ諸君ニ向テ前議會以後ニ於ケル外交經過ノ大要ヲ陳述スルコトヲ得ルハ本大臣ノ光榮トスル所ナリ

帝國ト聯合同盟國トノ結束ハ益々鞏固ヲ加フルト同時ニ其他締盟各國トノ關係亦益々親善ヲ加ヘツヽアルハ本大臣カ諸君ト共ニ欣幸トスル所ニシテ又今回ノ御大典ニ際シ之等ノ各國カ何レモ熱誠ヲ以テ奉祝ノ儀ニ參加シ衷心祝賀ノ意ヲ表シタルハ我國民ノ擧テ滿足スル處ナルコト本大臣ノ言フヲ待タサル所ナリ

隣邦支那ニ在リテハ國体變更帝制再興ノ議起リ最近憲法ニ其歩ヲ進メ之カ實現將サニ遂ケラレントスルニ至レリ是ヲ以テ政府ハ愼重審議大局ノ利害ヲ考察シ他ノ關係諸國トモ充分意見ヲ交換シタル上支那ニ對シ國体變更ノ計畫ヲ延期セシコトヲ友誼的ニ勸告スルニ決シ我在支代表者ヲシテ之ヲ實行セシメタル次第ハ其當時之ヲ發表シ置タル通リナリ蓋シ歐洲ニ於ケル戰爭ノ慘禍業已ニ甚シキモノアルニ當リ何レ地タルヲ問ハス更ニ新ナル不安ノ紛擾ヲ加フルノ虞アル事態ハ能フ限リ努メテ之ヲ避クルヲ必要トス然ルニ支那各地方ニ於ケル趨勢ハ表面一般ニ帝制ニ贊成ヲ表スルノ觀ヲ呈スレトモ裏面ニ於ケル反對不安ノ氣運ハ意外ニ深ク且廣キニ亘ルト信スヘキ理由アリ『若シ一旦帝制ノ實現ヲ見ルカ如キコトアランカ如何ナル擾亂ヲ來スヤモ計リ難ク折角

REEL No. 1-0442
0396
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

近時漸ク平靜ニ近キツヽアル支那ノ治安ヲシテ再ヒ逆轉セシムルノ虞アリ東洋ノ平和亦遂ニ之カ為メ危殆ニ陷ルナキヲ保セサルノ有様トナレリ而シテ若シ帝制實行ノ結果斯ノ如キ事態ヲ惹起スニ於テハ直接間接支那ニ對シ利害ヲ有スル諸國殊ニ之ト最モ密接ノ關係ニ在ル日本ノ蒙ルヘキ損害ハ真ニ計ルヘカラサルモノアルヘシ帝國政府ノ執リタル措置ハ隣邦支那ノ秩序公安ヲ維持シ延イテ東洋ノ靜安狀態ヲ確保センカ為其當ニ盡スヘキ所ヲ為シタルニ外ナラスシテ毫モ支那ノ内政ニ干與スルノ意思ナキハ勿論支那ニ對シ一点ノ私心アルニ非ス全ク誠心誠意支那及列國ノ利害ヲ顧念シタルニ由ル次第ナリ

我在支代理公使ハ帝國政府ノ訓令ニ基キ英露佛三國公使ト協同シテ帝制延期ノ勧告ヲ実行シ更ニ導テ伊國政府モ亦自ラ同様ノ措置ヲ告テタリ

右諸國ノ勧告ニ対シ支那政府ノ為シタル回答ノ全文ハ去ル月四日ヲ以テ公表シタル通ナルカ要スルニ措辭曖昧意味明瞭ヲ缺クモノアリシヲ以テ帝國政府ハ更ニ支那政府ニ問フニ同政府ハ列國ノ為シタル帝制延期ノ勧告ヲ受諾シタルモノナリヤ否ヤヲ以テシタリ

「支那政府ハ之ニ対シ回答スル所アリシモ其詳細ノ内容ニ至リテハ支那政府ヨリ秘密ノ回答トシテ受領シタルモノナルヲ以テ今日此席ニ於テ之ヲ開述スルコトヲ得サルハ本大臣ノ遺憾トスル所ナ

ルカ要スルニ帝制ノ実行ハ多少延期ヲ免レス
トノ意向ヲ表彰シタルモノナリ若シ夫レ本問題
ニ対シ帝國政府カ今後執ルヘキ措置ニ至テハ事
関係諸國ト協議未タノ事項ニ属スルヲ以テ直
チニ之ヲ彩ニ言明スルコトヲ得サル次第ニ付右様
御諒承相成タシ
昨年九月五日倫敦ニ於テ英佛露三國間ニ調印
セラレタル所謂倫敦宣言ニ関シ帝國政府ハ過般
同宣言ニ公然加盟スルノ手續ヲアセリ抑右宣言
御承知ノ如ク現戰爭中單獨ニ講和セサルヘキコト
及何レノ政府モ他ノ政府ノ同意ヲ經スシテ講和
條件ヲ要求セサルヘキコトヲ約定シタルモノニシテ右
三國間ニハ日英両國間ニ於ケルカ如ク戰後講和

ニ関シ何等協約ノ存スルモノナカリシカ故ニ右約定
ヲ必要トシタル次第ナルモ日英両國間ニハ同盟協
約第二條ノ規定アルヲ以テ更メテ右ノ如キ約定ヲ
為スノ必要アカリシナリ
右ノ次第ハ昨年本議場ニ於テ當時ノ外務大臣加藤
男爵ヨリ報告セラレタル所ニシテ諸君御承知ノ通ナ
ルカ其後三國政府ヨリ帝國政府ニ對シ右倫敦宣言
ニ正式加入方ヲ勸誘シ来リタリ由来帝國カ三國側ト
協同講和ノ関係ニ在ルハ日英同盟條約ト倫敦宣言
トヨリ来ル自然ノ結果ナレハ帝國政府カ更メテ正式
ニ倫敦宣言ニ加入スルノ絶對必要アリタル次第ニハ非
スト雖モ帝國ノ宣言加入ハ聯合諸國ノ決心及結合
ノ益強固ナルコトヲ内外ニ宣明スルモノニシテ戰爭ノ前

途ニ對シ頗有益ナルヘキノミナラス媾和ニ臨ムテ関係國ノ間ノ位地ヲ一層瞭然タラシムルノ效果モ亦之アルヘキヲ認メタルヲ以テ帝國政府ハ在英大使ニ訓令シ去ル十月十九日ヲ以テ英國外務大臣及英國駐劄佛露両國大使トノ間ニ該加盟ニ関スル文書ノ交換ヲ行ヒタル次第ナリ右交換公文ハ曩ニ公表セラレ既ニ諸君ニ於テ御承知ノ通ナリ

（十月八日ノ誤ナルカ已ニ発電済ニテ訂正ノ年月ナリシ旨ナリ）

次テ十一月月末ニ至リ伊國政府モ亦倫敦宣言ニ加盟スルニ決シタルヲ以テ同月三十日倫敦ニ於テ日英露佛及伊國政府ノ間ニ右加盟ニ関スル宣言ノ調印アリテ其條文ハ昨六日公表セラレタリ

REEL No. 1-0442

0399

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第7門

附屬書類添附

政

大正五年弐月廿壱日接受　第二課（長岡）

公信第一二二號

大西四年十二月七日

在智利公使代理伏見宮

臨時代理

外務大臣男爵石井菊次郎殿

貴大臣電信第表ノ件ニ関シ閣下ガ本年五月ノ交渉ニ係ル第七回帝国議会ノ日程会ノ第世一電信駐米大使ヲ以テ電信有之候ニ付テハ全文ノ電信ニ接シ直ニ主要ノ事柄ヲ新聞紙ニ送付致シ候ニ付テハ右ノ内ニ関係ノ事柄ヲ掲載致シ候ニ付テハ大西各新聞社ヘ送付致シ候ニ付テハ右ノ内ニ関係ノ事柄ヲ掲載致シ候ニ付テハ

在智利國日本公使館

REEL No. 1-0442

0400

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

9/12-15
Las Últimas Noticias

APERTURA DE LA DIETA JAPONESA

El discurso del Ministro de Relaciones Exteriores. — Las relaciones internacionales del Imperio.

Ha sido transmitido a la Legación japonesa en Santiago el discurso que el Ministro de Relaciones del Imperio pronunció ante el Congreso de su país, el 7 de este mes en la apertura de la Cámara.

Dice así:

Caballeros: Me es honroso encontraros aquí, en este recinto a la apertura de la Dieta imperial en su 37.ª sesión, y permítome exponer ante vosotros, brevemente, las relaciones internacionales del Imperio, desarrolladas desde la última sesión, lo que encontraréis seguramente satisfactorio. La unidad entre el Imperio y las potencias aliadas está ganando el terreno con su solidaridad, mientras las del Imperio con las potencias con quienes aún no tenemos tratado, progresan en cordialidad, y tengo motivos para creer que esterioriza los sentimientos del pueblo de nuestro país, si digo que nos ha sido especialmente agradable y grato la manera con que esos países amigos han querido participar cordialmente en la gran ceremonia del Imperio, que acaba de celebrarse, y que ha hecho manifestar las más sinceras congratulaciones de parte de ellos.

El movimiento monárquico que recientemente se ha desarrollado en la China, tomó un giro repentino para el logro de su objeto. Hecha una consideración cuidadosa sobre la situación general y después de cambiadas miras por las diversas potencias, el Gobierno Imperial ha resuelto darle a China un consejo amigable, a fin de postergar el cambio de la forma del Gobierno, lo que se ha hecho saber por intermedio de sus representantes en China.

En vista de la guerra europea, era muy importante, que todos los esfuerzos fueran desarrollados, a fin de evitar en cualquiera parte del globo la creación de nuevas situaciones que pudieran causar otras complicaciones e inquietudes. Aunque el régimen monárquico aparecíera prestigiado por la masa del pueblo, había razones para creer que en realidad hubo tendencia oculta de censura y oposición, tendencia que era tan fuerte que no se hubiera imaginado, atrayendo con este motivo, creciendo sentimiento de inquietud entre toda clase popular.

En estas circunstancias, nadie podía garantizar que no ocurrieran disturbios, si el régimen monárquico tuviese desarrollo. Al contrario, y se temía que la China, que recientemente estaba recobrando con solidaridad su paz y orden, fuera arrastrada a su condición anterior de disturbio.

Era evidente que tal eventualidad habría sido altamente perjudicial a la paz general del Oriente. Si una situación semejante fuera creada con resultado del levantamiento o desarrollo del régimen aludido en China, inconmensurable sería el daño que se les hubiera causado a las potencias que tienen interés directo o indirecto en China, y muy en especial al Japón, que se encuentra en relaciones tan íntimas e importantes con ese país. Por consiguiente, al aconsejarle a China el procedimiento que antes he mencionado, el Japón ha obrado únicamente en lo que interesa a la tranquilidad general del Oriente, cuya conservación depende grandemente del mantenimiento de la paz y orden en China. No ha habido jamás por parte del Japón ninguna intención de intervenir en los asuntos domésticos de la China, ni tampoco desarrollar ningún objeto interesado aprovechando la situación. En otros términos, el Japón ha actuado únicamente empujado por el sincero deseo para salvaguardar el interés común de China y las potencias.

En cumplimiento de instrucciones del Gobierno, el representante imperial en China, conjuntamente con los de Gran Bretaña, Rusia y Francia, ha aconsejado al Gobierno chino, actuación que más tarde ha seguido el Gobierno de Italia.

Como la respuesta del Gobierno chino dada en contestación al consejo de las potencias, respuesta cuyo texto íntegro fué publicado el día 4 de noviembre último, fué de carácter ambiguo y dudoso, el gobierno imperial ha querido asegurar si dicha respuesta significaba la aceptación de sus consejos; pero siento venme en la imposibilidad de anunciar la respuesta del Gobierno chino a esta pregunta, pues ella ha sido de carácter confidencial, y no puedo informaros de ella en detalle; sin embargo, os diré que el Gobierno chino contempla el retraso de ejecutar el plan. De lo que ha actuado después el Gobierno Imperial, no puedo deciros nada por ahora, pues el asunto se encuentra en deliberación entre diversas potencias interesadas.

Recientemente el Gobierno Imperial formalmente se ha adherido a la declaración de Londres, firmada el día 9 de setiembre de 1914 entre Gran Bretaña y Francia, convenio entre tres potencias por el cual ninguna de ellas concluirá la paz separadamente durante la guerra actual, ni demandará condiciones de paz sin que previamente haya obtenido consentimiento de las otras potencias signatarias. Esta declaración era necesaria, porque las tres potencias no se habían obligado por ningún convenio semejante, tal como una que existe entre el Japón y la Gran Bretaña, relativo a la conclusión de paz. En cuanto al Japón y Gran Bretaña, sin embargo, a causa del artículo 2 del tratado de alianza, no había necesidad alguna de entrar nuevamente en tales detalles.

A este respecto, mi predecesor, barón Kato, había tenido ocasión de explicaros, en las sesiones del año pasado.

El Gobierno Imperial recibió de los gobiernos de las potencias antes mencionadas invitación para adherirse a la declaración de Londres. En virtud de las provisiones de la alianza anglo-japonesa, el Japón se coloca en cuanto a la cuestión de la conclusión de paz, exactamente en la misma relación que la Gran Bretaña, y por intermedio de ella, con cada una de las dos restantes de las tres potencias, como fueron ellas mismas para con cada una por los términos de la declaración de Londres; y por consiguiente no había necesidad alguna por parte del gobierno imperial, para adherirse formalmente a la declaración aludida.

Considerando, sin embargo, que la adhesión del Japón a la declaración tendría efecto no solo de demostrar el hecho ventajoso de la determinación de los aliados y su unidad, que se encuentra más y más fuerte, sino también de acentuar más definitivamente las relaciones mutuas de las potencias aliadas, relativamente a la conclusión de la paz, el gobierno imperial instruyó al embajador de Su Majestad en Londres para canjear —lo que ha hecho el 12 de noviembre— notas que significan sus adhesiones formales a la declaración, con el Ministro de Relaciones Exteriores británico y los embajadores de Francia y Rusia en Londres. El texto de la nota canjeada ha sido ya publicado y vosotros sois conocedores de ella.

Más tarde, en los últimos días de noviembre, el gobierno italiano, igualmente resuelto a adherirse a dicha declaración, el día 13 del mismo mes, ha expresado su adherencia a lo firmado por el Japón, Gran Bretaña, Rusia, Francia e Italia, y su texto ha sido publicado el día 6 de diciembre.

REEL No. 1-0442
0948